

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 東洋史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成	
績	

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ (東洋史 専攻分野)

I

以下の中国古典文 (A) (B) につき、(1) 貸与された赤鉛筆を用いて句読 (、。) を切り、(2) 現代日本語または現代中国語に訳せ (赤鉛筆は句読を切るときのみ使用)。

(A)

何子平廬江灣人也曾祖楷晉侍中祖友會稽王道子
驃騎諮議參軍父子先建安太守子平世居會稽少有
志行見稱於鄉曲事母至孝揚州辟從事史月俸得白
米輒貨市粟麥人或問曰所利無幾何足爲煩子平曰
尊老在東不辦常得生米何心獨饗白粲母有贈鮮肴
者若不可寄致其家則不肯受母本側庶籍注失實年
未及養而籍年已滿便去職歸家時鎮軍將軍顧覲之
爲州上綱謂曰尊上年實未八十親故所知州中差有
敬祿當啟相留子平曰公家正取信黃籍籍年既至便
應扶侍私庭何容以實年未滿苟冒榮利且歸養之願
又切微情覲之又勸令以母老求縣子平曰實未及養
何假以希祿覲之益重之既歸家竭身運力以給供養

(『宋書』孝義・何子平伝より)

受験記号番号

$$\frac{2}{5}$$

(B)

胡濙

濙爲禮部尚書時王文威權赫奕忤之者必死吏科給事中林聰獨上章劾之文怒日求其罪不得也會聰鄉人有事吏部聰以囑文選郎中郎中山其手書文欲因是陷之會官廷議比擬大臣專擅選官罪死廷臣皆畏文無敢違者公徐謂文曰給事七品官而擬以大臣屬微事而擬以選法二者於律合乎且人臣以私憾欲殺

諫官無乃不可乎拂衣而出曰此疏吾不與公等自爲之遂稱病不朝數日景帝問胡尚書安在左右以疾對使太監興安問之濙曰老臣無疾前日會議驚悸不寧耳安問何事曰諫官有微罪而大臣欲殺之此臣所以懼也安以白上既而法司以比擬奏上詔曰比擬殺人可乎聰得不死鄉人有不悅公者造帷薄之謗書達於公公若不聞也他日其人至京謁公公接之如平生歡留之書室偶翻文卷則其書在焉驚愧而出公亦若不知也

長澤巴里

子

〔震澤紀聞〕卷上より)

受験記号番号

 $\frac{4}{5}$

Ⅱ (1) ～ (5) につき、知る所を簡潔に述べよ。(日本語で述べよ。)

(1) 『塩鉄論』

(2) 武川鎮

(3) 門生天子

(4) 土木の変

(5) 康有為